

小さいながらよく考えたものだ」と、近頃
になく感心してしまった。或るていどの刺激
を与えることの必要なことも再認識した。

五才児の健康

堀合文子

幼児の生活には健康が最大の目的である。
幼児期の幼稚園生活には種々の経験内容が決
められ、教師によっても計画されている。

「健康」ももちろんその一つであるが、言う
までもなく幼児期の経験は互に領域が交叉し
て分離する事はできない。健康はすべての領
域に働きかけ、幼児の身体的・精神的部面に
考えられなければならないと思うのである。

○教師の計画の中で「健康」の領域ということ
「健康」の指導書が私達の指導の手引をし
てくれる。しかし私共幼児を実際に目の前
において指導しているものは、知識として健康
の内容を分類して知っていなければならぬ
が、幼児の上に表示されてくるのは広い健康



の分野である。特にこれは幼児期だからであ
らう。

○戸外でいろいろの遊具を使ったり、幼児
の創造性を働かせて、幼児の全身を活動さ
せて遊んでいる。

ぶらんこにのる、すべり台ですべる、ジャ
ングルよじのぼる、太鼓橋をのぼったりさ
がったり、鉄棒をまわる、縄のぼり、棒のぼ

りをする、鬼ごっこをする、自動車にのる、
砂場であそぶ、などなど。

幼児の健康生活はこれだけでよいといつて
もよい。教師が幼児と共に遊び、指導する事
が幼児期の健康のすべてだと言っても過言で
はないだろう。

幼児が自由感を持ち、自発性のみちみちた
生活をする時こそ、幼児の健康は保持され、
健康は伸張していくのだと思う。

健康の領域をやらなくてはと、一列に幼児
を並べてボール投をしたり、幼児用運動具を
使用させたり、乗りたくない幼児を無理に誘
導してぶらんこのり方を指導したりするのは
一見、幼児の健康を指導しているようにみ
えるが、肢体を動かす事においては平均であ
らうが、幼児期においては真の健康教育では
ないと思う。

自由感の中でのびのびと幼児の自発活動を
たのしむ生活をしてこそ、幼児の身体的面
も、精神面も健康に発達し、その幼児こそ健
康であるので、私共の指導も、個人とその機
会とを考え、形の中に幼児をはめこまなくと
も指導する機会はたくさんころがっているの
で、その時の指導こそ幼児を健康に成長させ



る時である事を特に幼児と生活を共にしている教師の指導はこの点をよく考えて計画し、指導したいと思う。

○もう一つ、幼児が健康であるため幼児の生活をしていくに必要な基本的習慣がある。

排便、手洗、うがい、食事、発育測定などに考えられる幼児のよき習慣。

これは社会の領域から考えられる事と併せて、教師が幼児期に必要な条件をよく知っていてこれを指導しなければならないと思う。前述の健康面を保持するにはこのよき習慣が幼児に必要なとなる。

■これは、幼児が「躰けられている」という感を持たなく、むしろ知らぬ中にたのしく自然に習慣つけられるこそ教師の指導技術だと思ふ。もちろんこれは幼児の自発的活動でなく、おとなが環境としていろいろ考えなければならぬ場合もあるし、卒先して行動しなければならぬ場合もいろいろある。

幼児は病気になる以上、幼児自身は常

に健康と考えて幼児自身の生活をたのしんでいる。幼児期はおとなが保護しなければならない時期である。幼児が自分から健康保持のために発育測定をしたとか、健康のためだからこの食事をとるなどは珍話であろう。おとながいろいろ指導して後にこのような事を考えるので、それも幼児期にはおとながどの程度保護し、どの程度指導すべきかはよく





考える事が教師のつとめである。

いろいろなきびしく駢けて、よき習慣をつけよき幼児、よき指導と誇るかもしれないが、反面前述の面で大いに不健康となる恐れがあるから、その点幼児期には特に注意しなければならぬことであろう。

○幼児期は保護の時期である。これが管理ともつながる事で、幼児を全身で充分に活動

させる時の管理、よき習慣をつける時の環境

の管理とは幼児を健康に生活させるための教師の大なるつとめであろう。どのように管理を、とははぶくが、幼児が充分に健康であるためには、管理という事を常に考え、口に出さなくとも教師の神経と注意力とを働かせ幼児が安全で健全な健康生活ができるように考えなければならぬ。

○五才児の健康

一年乃至二年の幼稚園生活をしてくると、他方面に成長発達する。よき習慣も一応身についてくる。そして幼児の生活は健康の領域から次第に知的な領域の生活へと移行する過程になってくる。しかし健康面は常に考えられており、また、体力も相当についてくるので幼児自身も益々活発な行動で教師の誘導をまたずに自発的、創造的に活躍してくる。また、よき習慣もスムーズに行なわれるようになってくる。

○教師は他の領域の指導でいそがしくなるが機会をとらえては教師も共に遊ぶことは年少の時と同じで機会は少なくなるが大切なことである。五才児の体力は教師が全力を出してもなかなかい場ゆもできて、幼児も一段

と張りが出るにちがいない。

○体力ができてくるにしたがい声も大きく行動も活発になってくるし、個々が体力の全部を出して体当りの生活をしてくるので、年少の時とちがった意味だけが事故が多くなる傾向がある。もちろんそれは理解がないとか、できないとかのことでなくて体力のあまりがそのような現れになる場合が多い。一つの成長の過程だが教師は管理面で特に注意し正しい軌道にのせてやらねばならない。

○よき習慣も殆んど不自由なく行なわれるようになってくる。しかし、常に教師は観察し、くずれかけたらまた思い出させながら軌道にのせる事はまだまだ指導しなければならぬ。

○五才児になると以上のように或る程度の発達がみられる。それにつれて個人差が甚しくなる。教師はその仲間に入れないもの、また、動的を好まないもの、女子なども共に健康的な遊びができるよう誘導しなければならぬ。その誘導には年少の時とちがった指導技術を考えなければならぬであろう。

○このように五才児は身体方面の健康は幼児期として目にみえて完成の道をたどる。と

同時に精神方面の健康も幼児期としての発達をみる。精神的健康は年少の時より考慮されてはいるがこれもなかなか思うようにゆかず、身体的健康と共に精神的健康も大いに考え教師が幼児の生活を観察しながら指導しなければならぬ事である。もちろん幼児のため、完成された精神的健康ではないが、将来健康なる精神を持つための基盤がここに養われなければならないのだと思う。

就学を前にする五才児には特に健康なる身体と共に健康なる精神を考えておきたいものである。

○教師の健康

幼児を指導する教師が健康であることは言うまでもないことである。健康なる身体、健康なる精神を持ち、常に、にこにこと努力をおしまぬ明朗快活な教師でありたい。幼児の「健康」の領域においては幼児期の発達状態、それに必要なさまざまな諸条件をよく理解して心得ておき、幼児が充分に自発活動のためのしめ創造性を働かして活動し、幼児期でなければえられぬ真の意味の「健康」の領域の目的を達するよう努力したいものである。指導ということの中にはもちろん、管理と

いうことが併せ考えられているが、教師が管理を考える時、幼児に要求する以上の知識を持ち自分でも体験、実験して安全度を知る事がより私共の立場では必要であろう。遊具、運動具の正しい使用の仕方をわからずに幼児にやらせるような無責任さは常に反省し、学び研究する謙そんな態度を常に持ちたいものである。

予 告

幼児教育講習会

期日 昭和37年7月22日—25日

(午前の部・午後の部)

場所 お茶の水女子大学講堂

会員の皆様の御要望により今年は期日を一日繰り下げ二十二日からはじめることになりました。

詳細は次号に掲載いたします。

日本幼稚園協会

幼児の教育 第六十一巻第六号

六月号 ◎ 定価六〇円

昭和三十七年五月二十五日印刷

昭和三十七年六月 一 日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。